

「ボランティア養成セミナー&NEAL リーダー養成事業」

1. 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に取り組もうとする意欲を高める。また、自然体験活動指導者（NEALリーダー）講習を受講することで、楽しく安全に活動を指導するための技術向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和2年9月19日（土）～9月21日（月・祝）【2泊3日】

(2) 参加者

- ①参加対象 高校生以上
- ②参加人数 31名（応募34名 キャンセル3名）
- ③参加者の内訳 高校生5名、大学生20名、社会人6名（職員3名）
- ④修了者数 30名（1名部分受講）うちボランティア登録者数 27名

3. 企画運営のポイント

- ・2泊3日一括で法人ボランティア登録とNEALリーダー登録が可能となるような日程とした。また、ボランティア活動及び自然体験活動指導者として必要な知識や技能を座学だけではなく、体験を通して学べるように計画した。
- ・法人ボランティアとして活動してきた先輩学生ボランティアが、自らの体験談を発表することで、ボランティア活動について具体的なイメージを持たせ、前向きに取り組んでいこうとする態度を養わせた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、受付時・就寝前・起床時の検温、手洗い、マスクの着用など、基本的な感染症対策の徹底を図り、安心して研修に取り組める環境とした。

4. 日程

	午前	午後
9月19日 (土)	開講式 「NEALガイダンス」 主任講師 「青少年教育施設における現状と課題」 交流の家所長	「ボランティア活動の意義」「青少年教育」 文教大学准教授 青山鉄兵 氏 「自然体験活動の技術」 交流の家職員 「青少年教育施設のボランティア」 交流の家職員、法人ボランティア
9月20日 (日)	「自然体験活動の安全管理」 日本赤十字社群馬県支部 指導員	「自然体験活動の指導」「対象者理解」 國學院大学准教授 青木康太郎 氏 「自然体験活動の技術」 キープ協会主席研究員 増田直広 氏
9月21日 (月・祝)	「自然体験活動の特質」 キープ協会主席研究員 増田直広 氏	「認定試験」 「法人ボランティア制度について」 交流の家職員 「NEAL制度について」 主任講師 閉会行事

5. 主な活動内容



ボランティア活動の意義



自然体験活動の技術



安全管理



対象者理解



自然体験活動の技術



自然体験活動の特質

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足 25 名 (92.5%)、やや満足 2 名 (7.5%)

(2) 参加者の声

- ・「自然体験活動の特質」や「自然体験活動の技術」では、実際に体験を通して学ぶことがで、さらに理解度が深まることが体感することができた。また、夜の森は少し怖かったが、五感が研ぎ澄まされ、自然の中でリラックスできた。
- ・「自然体験活動の指導」や「対象者理解」では、指導者として求められること（資質・ソフトスキル・ハードスキル）を学んだうえで、今の自分に足りないことを強化したいと思った。また、対子どもの理解だけではなく、自然や現代の社会状況についても理解を深める必要があることを知り、視野を広げなければならぬと感じた。
- ・「ボランティア活動の意義」や「青少年教育」では、体験を意図的にさせる難しさを実感した。いかにやらされている感をなくしながら、学ぶ場をつくっていくかは、学校の授業づくりと共通していることを実感した。

(3) 成果

- ① 高校生が 5 名参加、大学生は 6 大学から集まるなど、多様な所属からなる参加者が集まった。また、事業直後に「あかぎフェスタ」や「親子事業」など比較的、取組みやすい事業が続くことから、ボランティア活動の第一歩を踏み出す参加者が多くなった
- ② 新型コロナウイルス感染症のために、時期を変更し、ボランティア養成セミナーと NEAL の同時開催となったが、プログラムの構成的に基礎的・概論的な内容から具体的・専門的な内容へと深まっていったため、参加者にとって理解しやすい流れになった。

(4) 課題

- ① 群馬県内の学生の参加が少ない状況であった。コロナ禍ではあるが、来年度に向けて、早期から広報計画を立て、県内大学へ説明できる体制を再構築する必要がある。
- ② 指導者養成業については、事前にしおり資料を PDF でメール送信するかグーグルドライブを共有・ダウンロードするなど、ICT 化できるものを増やし、事務作業の効率化を図る。

担当：福岡公平、横山直樹